

今月の World Times は、現在もロシアによる侵攻が続くウクライナの情勢に焦点を当てています。ADRA Japan という国際 NGO 団体に緊急対応・ウクライナ対応を担当されている小出一博さんにメールでお話を伺いました。日本はウクライナから遠い国であるため自分事としてとらえることは難しいかもしれませんが、ウクライナの今の状況をより多くの人に知ってもらい、日本にいる私たちにできることを考えていけたらと思います。ADRA Japan のホームページにはウクライナについての記事がたくさん載っているので、併せて見てみて下さい。

✿ウクライナについて

ウクライナの基本情報

- ・面積 60 万 3,700 平方キロメートル（日本の約 1.6 倍）
- ・人口約 4,414 万人
（2020 年、外務省ホームページより）



✿ADRA Japan について

- ・概要

ADRA Japan (アドラ・ジャパン) は正式には Adventist Development Relief Agency Japan という。

世界約 120 か国の ADRA 支部と連携し、国際 NGO として活動する。最近の国際協力事業では、アフガニスタンの教育環境改善支援事業や東日本大震災被災者支援事業を行なった。

- ・活動の目的

Mission Statement

世界各地において今なお著しく損なわれている人間としての尊厳の回復と維持を実現する。

Vision Statement

各国 ADRA 支部と連携し、専門的かつ効果的な活動を誠実に行なう。また、国際協力に貢献できる人材を育成し、国際協力に関する啓発を行なう。

Value Statement

1. キリスト教精神を基盤として
2. 人種・宗教・政治の区別なく
3. 現地のニーズに基づいて
4. 人々の自立を目指して
5. 「ひとつの命から世界を変える」をモットーに、一人ひとりに寄り添って活動する。



↑ ADRA Japan の
ホームページは
こちらから

✿—インタビュー内容(6月11日時点)—

①ウクライナの人々の日常生活は日々どのような危険に晒されていますか？

・いまだに攻撃が続いていて普段の生活を続けられない地域、攻撃は止んだが街の建物や学校などが破壊されてそこに住むことがしばらくは出来ないような状況にある地域、攻撃はなかったが危険を感じて避難する人が多く出て、逆にそうした地域からの避難者がたくさん入ってきている地域など、さまざま状況が渾然一体となっていて、それぞれの人が抱えている不安、困難が多様かつ深い。

・人が生きていく上で必要なことである「明日、普通の生活ができる日をまた迎えることができる」という安心感を、ウクライナの人々全員が持てないまま生活していかなければならない。それに加えて、お父さんが、夫が、兄弟が、友人が紛争地で戦っていると心配している人、攻撃で家族や親戚、友人を失ったこと、仲が良かった友人と離れ離れになってしまって不安を感じている人がたくさんいる。

・普通なら学校に通えている世代の人たちが、学校に通えなかったり、一時的に中断していたりする。

➡学校で基礎作りをして進学したり就職したりする、というような人生設計が今できない状況となっている。若い世代の人たちにとってその影響の大きさは計り知れない。

②ウクライナの子供たちの教育現場はどのような問題を抱えていますか？

・場所によっては「かなりの学校が破壊された」との報告が、国連機関などからもすでに出されている。学校などの建物そのものが壊されていたり、先生が離散してしまったりしていて、通常の学校のシステムが回復するまでに相当の時間がかかると予想される。

・6月9日のADRAネットワークの会議でのウクライナ国内の教育の状況について質問したところ、次のような回答をもらった。「学校を破壊されてしまったところもあるし、場所によっては続けられているところもある。教育の再生が、今後大きな課題であり、ADRAとしても今後取り組みを始めるべく準備している。」

③ADRA Japan が行っているウクライナ支援の中でもっとも重要視しているものについて教えてください。

・一人一人に寄り添って人間としての尊厳を回復することを重視している。

・「安心して、普通の明日を迎えられる」というような日常を取り戻すための支援をすること。そして、未来に希望を持てるような状況に一步ずつでも進めるような後押しをすること。

・そうした支援をするために、まずウクライナの今の状況を詳しく、丁寧に調査する必要がある。

④ウクライナ支援に協力したいと思っている(日本の)高校生に向けてアドバイスをお願いします。

「とても難しく、大きなテーマだけに、受け止めきれないと感じている人が多いと思います。でも、今まさにこの瞬間起きていることなので、目を背けることなく、向かい合ってほしいです。それには、一人でなく、仲間と一緒に取り組むことのほうが、心理的負担が減ったり、様々な見方を共有できるので、メリットがあると思います。そのような目的のために、ADRA や支援をしている団体、組織をどんどん活用して欲しいと思います。感心をもってくださる高校生の方たちに対して ADRA としてお手伝いできることがあれば、是非、出来ることをして行きたいと思っています。」

＊編集後記

・今回の取材で一番印象に残っているのは、ウクライナの人々は現在、「明日、普通の生活ができる日をまた迎えることができる」という安心感を持ってない状況下にあるということです。同じ世界で生きている人々が今そのような状況にいるということにもっと危機感をもち、私たちにできることを探していかないといけないなと思いました。日々の普通の生活にもっと感謝の気持ちをもち、学校生活を送っていきたいです。

(中西)

・沢山のメディアで報道されているウクライナの状況について、実際に現場で支援活動をされている方の視点からまとめたいと思い、このトピックを選びました。私たちが学校生活を送っているこの瞬間も、ロシア軍の攻撃の恐怖におびえているウクライナの人たちのことを多くの人に想像してもらえたらなと思います。

(柴田)